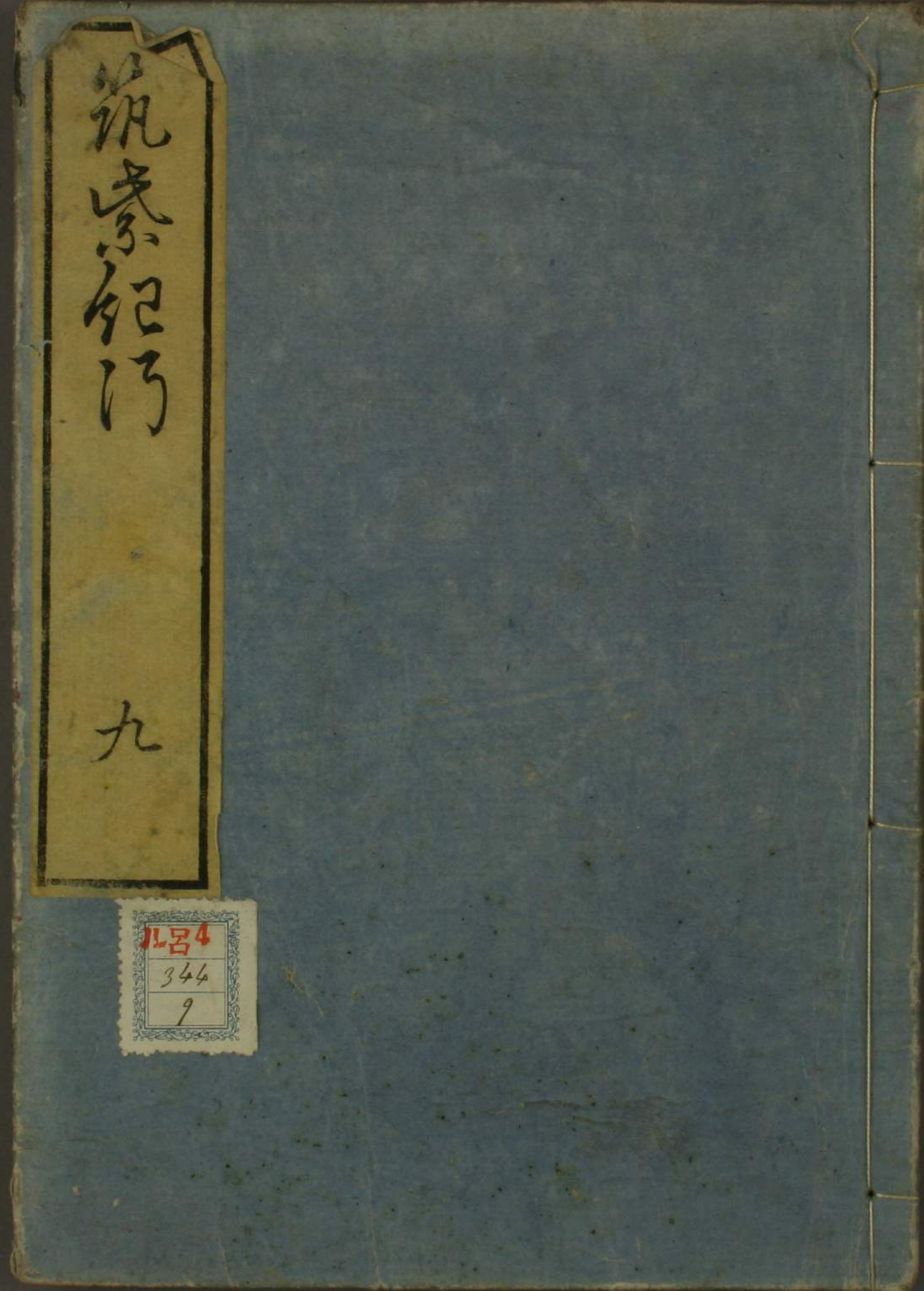


KODAK Color Control Patches  
© The Tiffen Company, 2000  
LICENSED PRODUCT

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 B 13 14 15 17 18 19



筑紫紀行

九

344  
9



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23

門ル呂  
344  
卷 9

三島

筑紫紀行卷九

○六日空晴卯刺頃小岡山の旅宿を立出。出口乃物門と出て

八丁計行ハ原大島人家三四十軒茶屋あり。次ハ

家十四五軒茶屋あり。十丁計行ハ追分村人家二十軒茶

屋あり。七八丁行ハ長原村人家十軒計茶屋酒屋あり。二十丁

多シ。五六丁行ハ藤井宿。人家五百軒計。宿屋茶屋

赤坂村人家二十軒計あり。十丁餘行ハ川あり。長二十間計

の土橋をくぐり。渡まハ舟橋村人家三十軒計。茶屋

あり。村はき小猶原村人家百軒多シ。土橋と渡ふより東

○卷九

一

村と稱する片側町ありて茶屋あり。此村を離るまば水深き  
小川あり。前の川と同じ流きをありとぞ。さて此川小舟ありて  
種々の物を積て引のがふ。其さ由京乃高瀬川の引舟小似  
たり。さて橋を渡り川小添て四五丁行ハ西祖村。農家五六  
十軒あり。是より堤小上りて三四丁行むひと市村人家四五  
十軒。茶屋宿屋もあきと。間の宿あり。山本屋より茶屋  
小立入る人と共小晝食とす。て玉餘魚を菜として。  
食一終りて。價を問ふ。老婦出る魚の價を問ふ。こゝ  
ころぐき程ありハ數倍。これ伴ふ内小こゝぬ人のありて。  
老婦を罵りて。價ハつよ。さうす。後ども。さうあて。も。汝再

通ふまじき速客とらんくの慾心乃程惡むべきの甚きこと  
つよ。老婦吞るや。元の價の高く。此の如く。さうで。賣  
ら。さう。さう。さう。さう。腹立て。汝猶もさや。乃事と。つよ。  
男を。バ。赦さ。ぬ。所。を。と。と。て。立。出。人。と。さ。ふ。よ。主。此。翁  
立。出。て。妻。を。る。もの。過。り。て。は。價。の。錢。か。へ。奉。人。と。つ。よ。  
左。い。ふ。こ。も。ふ。い。あ。び。猶。是。より。數。倍。を。つ。よ。も。價。を。つ。よ。ふ  
ま。り。す。べ。き。を。り。と。と。て。立。出。づ。出。口。小。吉。井。川。と。て。濶。百。間  
げ。り。の。大。川。あり。舟。より。渡。り。て。堤。げ。り。の。道。を。十。丁  
計。り。行。程。小。後。より。此。一。行。の。人。を。呼。か。く。者。あり。顧。見  
ま。ば。三。十。計。り。の。男。赫。と。照。け。くる。堤。の。白。沙。を。踏。立。る。

備前  
吉井川  
堤乃  
園

○卷九

三



走り来て近寄て汗押拭い息喘ぎながらうらやう今程  
鄰家々々山木屋にて夫婦いさうひゆを往てあまらへハ  
老婦う罵りきそは主う怒つてうらふていあら即主の頼こ  
ふらてこの詫を申さんとして参りて額を土ふけけけ恭  
しく懇小謝辭を述べ人をハ頬笑て受答へいももら  
らぶさめて歸そ我熟思ふ小老女の愚愆有事ハ何方ても  
同ド事そらうらうらう小主の心再び通ふまき旅客小恥  
らよこと心ももるをり又川をうらりて遠く追來まる男乃  
心の眞実やうなるをり此あうり土風の濃厚ふらうらと珍ら  
しく感ずるふ堪うら今日ハ雨後の暑のたまて堪ぐん小

一木の蔭ぶふなき堤の上乃砂道をゆくればいんさう  
暑し谷川の流まともやむあはさう那かくて四五丁  
行む奥郡長船村人家二十軒計あり此所ハ昔國宗盛家  
眞守守家長光などのひり名高き鍛冶の住り所  
たうらう今も刀鍛冶あまうあり四五丁行ハ坂根村人家  
十四五軒酒屋あまうと茶屋ハあり十丁計行ハ和氣郡香  
登町商家多く茶屋宿屋もあまうと間の宿をり十丁計  
行ハ大内村片側の町少て人家十四五軒茶屋あり前小大  
なる池ありこれ小因り所の人池あうと稱を十丁計行ハ伊  
邊村人家五六十軒あり伊邊焼うら陶器を作つて賣家

多し。二丁計行て坂道と三四丁登りて三丁計下まは。  
片上宿若井より人家三百軒計茶屋宿屋多し。一丁  
計行て東片山村十丁計の間人家所々あり。皆農家  
なり。くして二十丁あまりのゆも一本松人家三四軒茶屋  
あり。五六丁行て中村人家三十軒計茶屋あり。十丁計  
行て人家十四五軒あり。坂道を二十丁計上りて行てやけ山  
町人家三四軒茶屋もあり。四五丁急小下まは素通村。  
人家十軒計あり。七八丁行て三ツ石の宿片上より人家百  
餘軒家造り。潔淨なる宿屋茶屋多し。宿と離れ  
坂道と二十丁計登りて行て三軒茶屋あり。又少し

登りて舟坂峠に至る。備前と播磨との國境の表より。是  
より二十丁程下まは梨原村人家二十軒茶屋宿屋あり。を  
間の宿あひより。二三丁行て同一村の出郷とて人家二十軒計  
宿屋茶屋あり。是より山道半里計登りて入まは宇根峠。  
峠より半里下れば西宇根村人家二十軒茶屋あり。村  
より。まは川あり。三十丁計行て又川あり。是を  
歩り渡る。渡りまは播磨宇根の驛三ツ石より。赤穂乃  
御領より人家三百軒計茶屋宿屋多し。中屋嘉右衛  
門より小宿あり。

○七日日より。卯刻頃立出づ。二丁計行てらさ川。瀧百間

計こらう急流こらう水みづ深こほし舟ふねふて渡わたふ此こゝ川がはより先まづ八はち御ご公こう領りやうなり  
五ご丁てい計けい行ゆかハ横よこ尾お村むら人家にやう二十にじゅう軒けん計けいあり十じゅう丁てい計けい行ゆかハた村むら  
人家にやう三十さんじゅう軒けん茶ちや屋やあり五ご六りく丁てい行ゆかハ若わさの村むら人家にやう五ご六りく軒けん茶ちや  
屋やあり三十さんじゅう丁てい計けい行ゆかハ宮みやの尾お村むら人家にやう二十にじゅう軒けん計けい茶ちや屋やあり備び  
前まへの一いち國こくより此こゝ邊あたりて頃ころ日ひ雨あめふらぶらふより田でん作さくは猶なほ  
大おほ抵おほくともゆきど畠はたけ物もの甚おほ惡あやく稻いねも少すくく附つきりや  
なり半はん里り計けい行ゆかハ鶴つる龜かめ村むら人家にやう二十にじゅう軒けん計けいよき茶ちや屋やも  
あり此こゝ村むらの出口でぐちより右みぎの方かた小こ行ゆかハ赤あか穂ほの城しろ下した小こ至し子こを姫ひめ路ぢ  
道みちふてすく小こ行ゆかハ少すくく坂さかふすくあつて備び前まへ乃すなは地ぢ  
より此こゝありりまで道みちよりとゞくして半はん里り行ゆかハ久ひさ我が村むら人家にやう三

十じゅう軒けん計けい酒しゆ屋やありて茶ちや屋やなり出口でぐち小こ川がはあるをからり渡わたる  
三十さんじゅう丁てい計けい行ゆかハ片かた島しま宿しゆく宇根うね取とり脇わき坂さか淡たん路ぢ守しゆ殿てんの御ご  
領りやうなり人家にやう百ひやく四し五ご十じゅう軒けん茶ちや屋や宿しゆく屋やあり半はん里り計けい行ゆかハ正せい  
條じやうの宿しゆく下したり人の小こ人にん馬ばを繼つぐなり人家にやう百ひやく軒けん計けい茶ちや屋や  
宿しゆく屋やあり出口でぐち小こ正せい條じやう川がはとて大おほ川がはあり滴つ二に丁てい計けい舟ふねゆくは  
川がは向むか小こ茶ちや屋や四し軒けんあり十じゅう丁てい計けい行ゆかハ門かど前まへ村むら人家にやう五ご六りく十じゅう軒けん茶ちや  
屋やあり十じゅう丁てい計けい行ゆかハ滴つ五ご十じゅう間かん計けいの川がはありからり渡わたふ七しち八はち丁てい  
行ゆかハいふぐの村むら人家にやう十じゅう文字もんじ小こ町まちをありて五ご六りく百ひやく軒けんあり入口いりぐち  
小こ聖せい德とく王おう寺てらあり寺てら内うち小こ三さん重じゆうの塔たつあり門かど前まへ小こ茶ちや屋や多おほし  
二十にじゅう三さん丁てい行ゆかハ大おほ田でん原げん村むら人家にやう十じゅう四し五ご軒けん茶ちや屋やあり半はん里り行ゆかハ

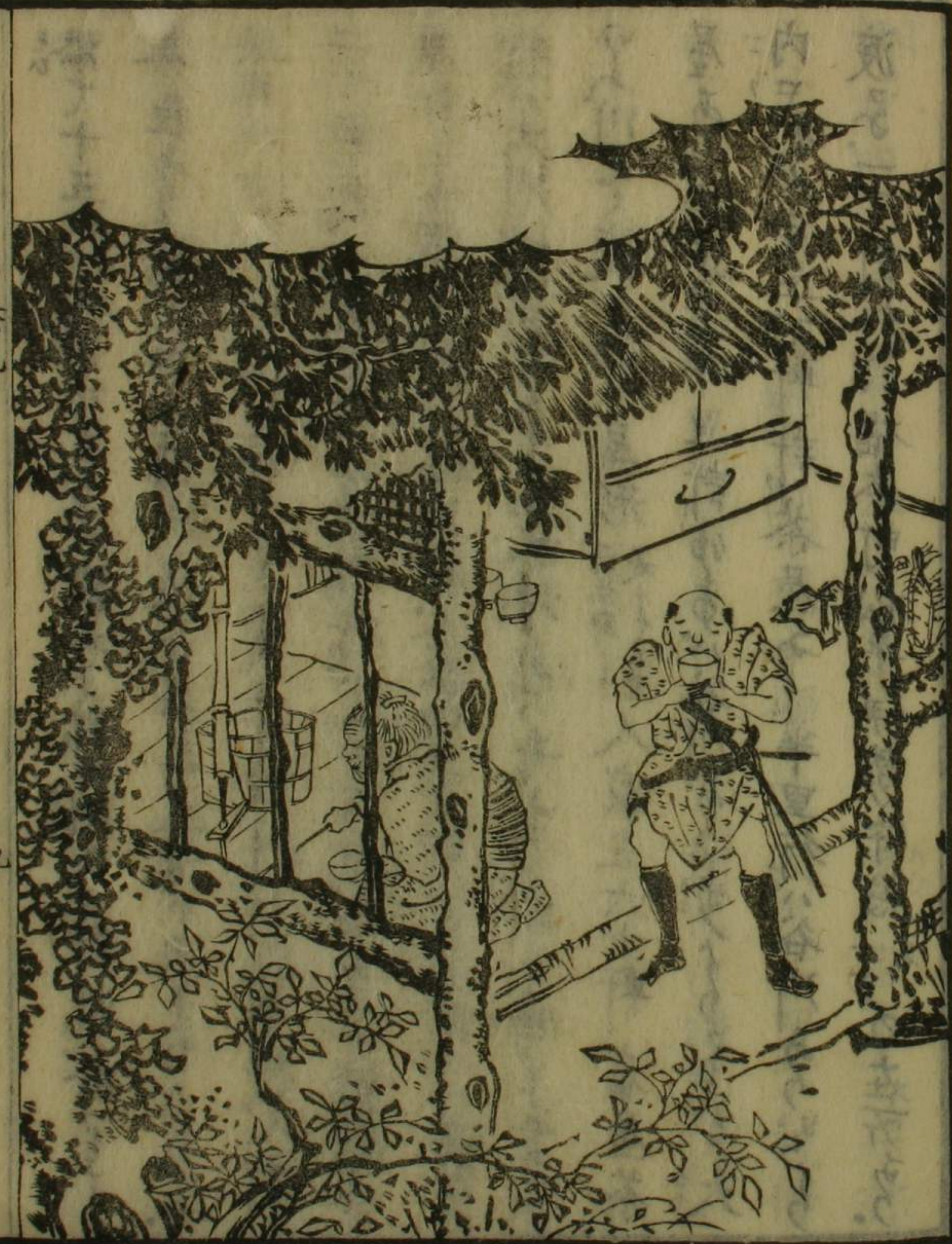
山田村人家三十軒茶屋あり是より山道十丁計登りて二  
十丁計下まば青山村人家四十軒茶屋あり此所より姫  
路の御城の天守見ゆさて此より一ツ橋様の御領地を  
村の出口小青山川とて濶百間計の川あり歩より渡ふ川  
向ハ天王村人家三十軒計茶屋あり此より石見道龍  
野道備前道の追分より二十丁計ゆけば 姫路片島  
置是ナクテ酒井雅樂頭殿十五の沖城下をり城内小五重乃  
天守其外櫓やぐらあり入り口より十丁計町屋を行ゆきて堀の橋  
をよりて城門を二つ越こふ其内小見附番所あり此より  
より町屋をり城ハ東北小ありて城の東ハ山南ハ海をり

町教をくく六十六丁此所ハ華細工の諸器を名物よりて賣  
家多し今宵ハ福中町の米屋清右衛門より小宿る所を  
是より大坂小直ち小登ふ小ハ加古川小到り高砂を覽  
明石須磨の浦兵庫西の宮尾が崎と經り大坂小入ふ事  
いとの播州廻めぐりて世人のよくする事なれば珍めづらしく  
予年来但馬の温泉小浴を人の志ありしうども得果さざり  
し小此度よき序をりとおもひて此夜荷物書状を取  
認まりて大坂小送りてけり置て其用意をりて寝臥する  
○八日卯刻過小立出て城の西乃方小出堀際を北へ行ゆり  
東の裏の方を南へ行ハ町家小出るを東小行事五丁

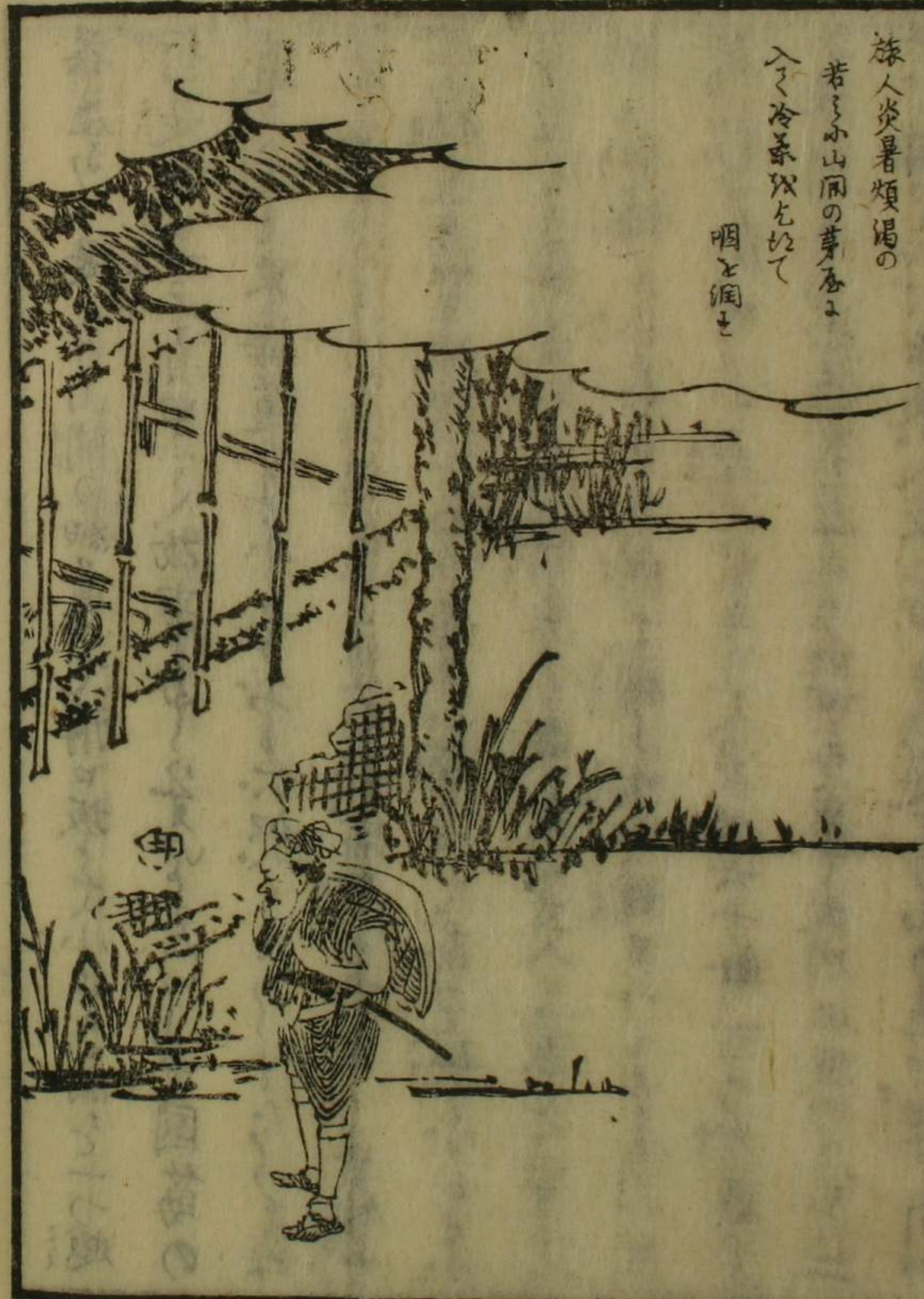


むらりありて郷町小出づ。又十丁計行ハ茶屋多し。三四丁行  
む白國村。道傍小人家六七軒あり。茶屋あり。七八丁行む  
砥堀村。人家五六十軒。出口小茶屋一軒あり。下砥堀村。人家  
三四十軒あり。茶屋あり。二丁計行ハ小川のあるを石橋より  
渡りて、市川より大川の堤を十丁計行ハ丹生野驛。姫  
一里半。人家五十軒計。茶屋あり。町の中通。小溝川あり。  
十丁計行ハ小川あり。石橋より。二三丁行ハ大飼村。農家  
四十軒計。茶屋あり。二十丁餘行ハ馬橋村。人家十四五軒。商  
家酒屋あれど茶屋あり。姫路より此邊まで三四里四方の平  
地なり。小石ありて道惡し。十丁計行ハ溝口村。人家四五十軒

茶屋あり。是より山間の細道。溝口坂とて小さき山を一つ越  
行。是道甚不自由。物事もろろ。中国筋の  
道。くまも東海道をふくろ。むらり。似へくもあらず。たゞぬ  
がらありし。小ま。て此道。まき道。なれ。宿驛の内。そ。食物等  
心小任。頃日照。暑さ。不堪。て。茶を飲。ふ。  
茶屋をき。所多。詮方。農家。立。入。て。家。を。守。  
居。老婦。小。茶。を。乞。得。て。纒。咽。を。潤。才。の。一。里  
計。行。む。新。町。と。て。間。の。宿。あり。人家五六十軒。町の中通。小  
溝川あり。茶屋宿屋あり。此所を出て大川の堤の上を二  
十丁餘。行ハ。千束。人家二軒あり。是より山の尾を廻り。川小



旅人炎暑煩渴の  
若く山阿の茅屋に  
入る冷茶飲を以て  
咽と潤す



添そひて十五六丁行はらまぢ人家五丁計の間あひ小百軒計終つり  
茶屋あり前小細き溝川流る名草れ滝の流もありとふ  
此内小ところて人を冷ひやして賣二丁計行は近平村人家  
二十軒計茶屋あり十丁計行はちり村人家三十軒計茶  
屋あり十四五丁行は福渡村人家四五十軒茶屋あり五六丁  
行は大川かちりりりる水増まば舟も渡も時もありと  
り川を渡まば屋形丹生野人家五六十軒宿屋茶  
屋あり堤道と半里計ゆあバ谷川あり歩ありりり大  
内こ村人家二十軒計茶屋あり半里行は谷川ありちり  
渡る二丁計行は福本町松平伊勢守殿一万石の在所あり

郷町四五丁あり商家茶屋宿屋あり間あひの宿をり二丁計  
行は粟賀の驛屋形一里計福本領あり人家百四五十軒佛  
霊とり銘の茶を出す茶屋宿屋あり河内屋傳右衛門と  
り小宿り

○九日晴卯刻頃小立出づ驛を離まて板橋をとまば上粟  
賀村人家二百軒計茶屋あり出口小戸田川とて濶あり四十間餘  
の川ありと土橋ありりりり是より山道小入り殿村二十  
丁計の間あひ小農家ままにありとまり百軒餘ありし  
中程小春日大明神の宮及り殿川とり谷川あり歩あり渡る  
かくてまり十丁餘行は一本杉木れをとり茶屋あり是より大

山村乃内をり。二十餘丁の間あひ人家七八十軒あり。にて折小  
は茶屋もあり。出口小川二つとも小土橋あり。とら内。五六丁  
行ハ一枚の板を橋あひふもを。川あり。川を渡りてゆり坂を  
いふ。小坂を登りて。猪笹村小至る。粟賀粟賀二里一名追上とも  
いふ。端宿をり。郷町小て人家三四十軒あり。此あり。山乃谷  
間あひ小く畠あり。田地のこあり。谷間故小暑氣なく冷ひやや  
をり。ゆりて小坂を十丁計登りて十四五丁下ま。真弓村  
あり。此間小谷川あり。とも小歩あり。渡り。真弓此宿。道道上より  
人家四十軒計。茶屋宿屋あり。一丁計行ハ川あり。土橋の  
長さ十間計。川をり。これバ森久ひ町。町家三四丁。小をり。つぎ

此所ハ生野及銀山の入口あり。改役所。銅間屋。其外銀山掛  
の役所等ありて賑いさ々し。七八丁登り行ハ峠とて人家  
十軒計あり。此所ハ銀山の北乃方の入口あり。山此小番所  
あり。銀山ハ此所より五十丁奥小あり。とゆ。さして平道を志  
し行て又坂路小あり。道みちの傍小松画き。扇あり。手小  
取あげて。

とら内代りあり。たてせり。む十久。とら内。わゆく春を  
ちり。をり。ゆり。繪。遺いるを拾いり。これ古語ふ。とら。け。とら。  
繪えのあて。とら。小えとて。や。び。ゆり。三四丁登り。とら。峠小至る。  
此所ハ播磨と但馬との國境をり。又一丁計下ま。こた村。

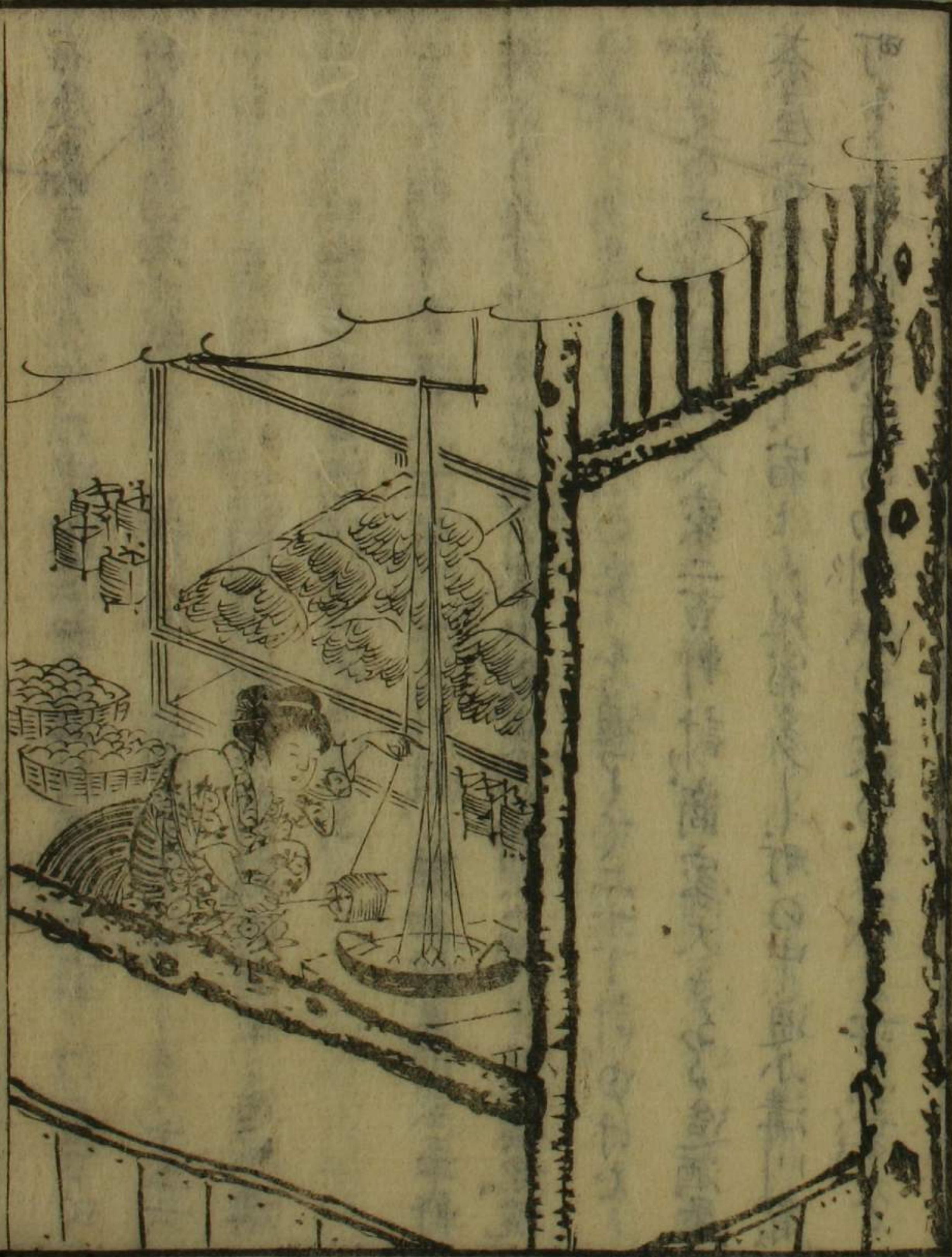
人家十軒計、茶店多くして茶屋ごとふ土用餅と砂糖餅を賣ふ。人々共立入て思ひもよび土用の節物餅を喰ふ。衣得て旅中をぐる祝儀を乞ふるあり。是は今扇を拾ふるけふやなどいひはく休むは荷物をもちてる人足は暑しやとて汗おしのびつ。いづれも人二度までころびるまきあはら小休に居る人皆聲をあけて笑ひつ。いづれも尻もち、はくもころや。ちやいふをまきも戯まきふ。

土用餅ふあつぬ荷もちの鹿餅もふてころぐや  
はくあつぬを供乃男まきはくそそみ出人足り

ころりてぬ返りけころまらんとてぬづきや。出りて又白餅を  
あつぬの土用餅をぬ荷もちの鹿餅もふてころぐや  
鹿もちやけくも果ぬおありあ人々又皆ころ笑ふ  
ころびる人足は我ころびるあぢか賑やうをいふ  
不興なるも又をいふがて此所を出て十四五丁下を圓山  
村人家二十軒計茶屋あり。十二三丁行ハ岩屋谷村人家五六  
十軒村中お川あり土橋より渡ふ。此所より岩屋の観音より  
詣ふ道あり。四五丁行ハ茶屋あり。岩屋谷村の内をり。家  
續小上津村。子村。二村。人家二十軒。商家あり茶屋  
あり。二十丁行ハ但馬山口駅。御公領あり。人家四

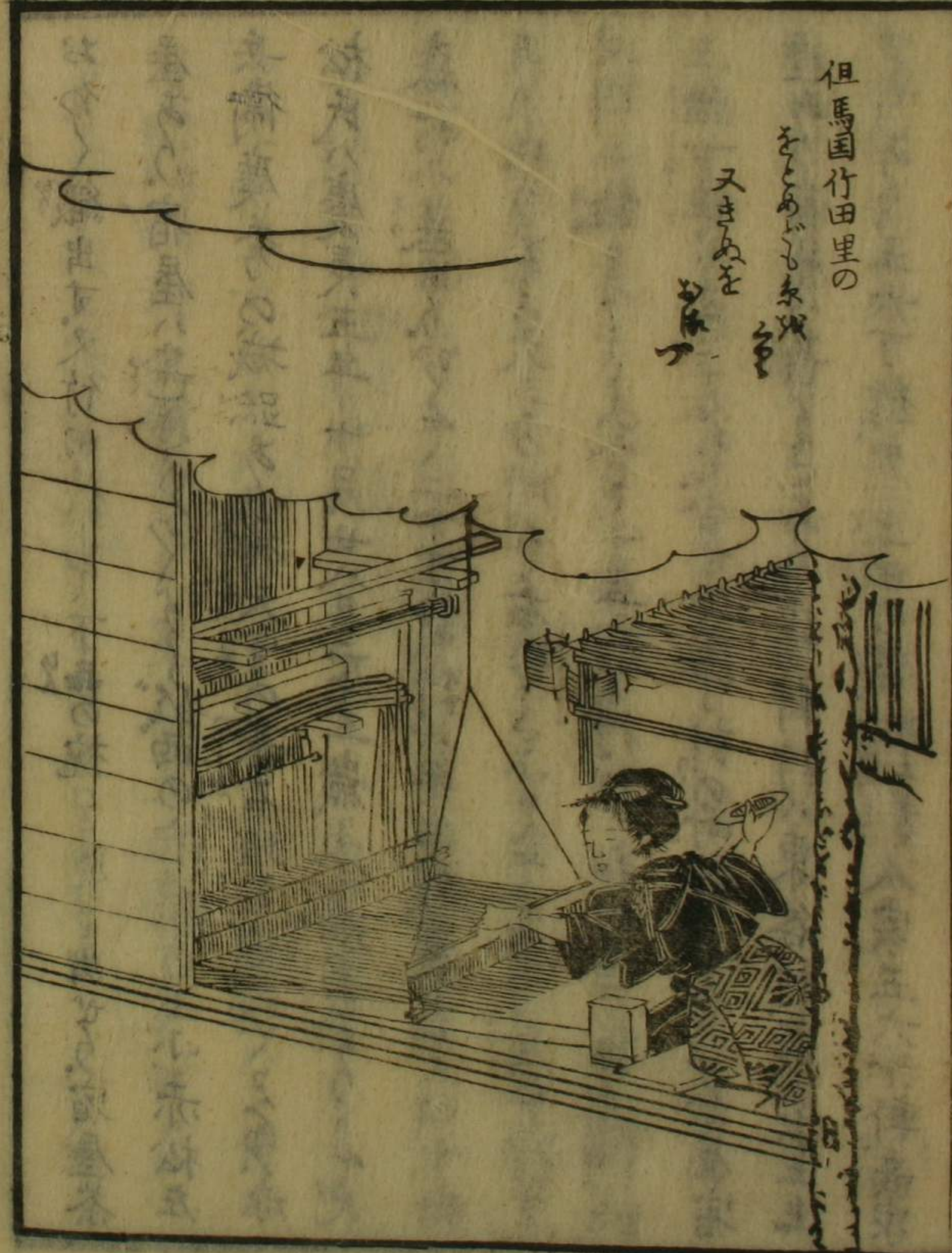
五十軒宿屋あり茶屋多し此あり鮎魚多しふや此馬此魚を賣家おろし此計行ハ濶三十間計の川あり土橋より渡ふ二三丁ゆゑ荒井村人家四五十軒皆農家あり二十丁あまりのけハ帯刀村人家六七十軒茶屋宿屋あり間の宿あり此ゆゑの麻を多く種作し又蠶飼を家々にふるあり五六丁行ハ桑市村農家三十軒計あり十丁計行ハ物部村間の宿あり茶屋宿屋農家とて五六十軒十丁ゆゑの川あり又十丁餘行ハ竹田宿山口駅より御公領あり瓦葺板葺打雜うちまじ町屋十丁あまりに立立ける此所より白糸を多く出し又白絹を

おろく織出す又竹田椀とて下品の椀を造り出せり宿屋茶屋あり宿屋ハ甚きうくぐり西の方北山の上小赤松左兵衛廣秀の城跡あり櫓やぐら天守の基石垣高くつゆの赤松氏ハ慶長五年十月廿八日三十三歳ふて逝去せなり大森村小墓ありかくて二十丁計行ハ平田村農家三四十軒あり此ありハ大なる川を右のうふりて其川岸を行あり此川小鮎多しとて十五六丁行ハ和田山の驛竹田より是まで二里上組下組とてけを合せて五丁計の町はきなり茶屋宿屋あり宿屋ハ甚きあり十丁計行ハ東谷村農家二三十軒あり五六丁行ハ土田の宿和田山より是まで半里人家五六十軒商家



但馬国竹田里の

さくらあけの糸織  
又まゐさ



宿屋茶屋あり。町の中通ふ細き溝川あり。五六丁行ハ宮田  
村人家四十軒多く農家少て商家もいささかあり。十五六  
丁行む 高田宿 高田より是まで半里八丁 人家百軒計町の中通ふ溝  
川あり。姫路屋宗右衛門といふ宿ふ。

○十日晴卯刻過小立出づ。二丁計行ハ堀畑村農家三十軒  
計あり。五丁計ゆけハ西ハ出石領東ハ御公領といふ領地境  
の表あり。是より大川の岸を通りて二十丁計ゆけむ  
養父の宿 高田より是まで半里 人家二百軒計。商家大なる。造酒屋  
茶屋宿屋あり。宿も少く宿多し。町の中通ふ溝川有。  
町をばはるきハ道の西側松の並木のあるべき所ハ葉を

いしと植並べたり。二丁より行ハ左の方ハ水谷大明神の宮  
あり。此ハ神名帳ハ但馬國養父郡水谷神社とある御社。  
坂を登りて隨身門のあるより入と拜を門ハ草葺拜殿  
本社ハ檜皮葺なり。左の方ハお猫とて此社とて小宮あり。  
宮の下なる小石をより歸りて家ハ置時ハ嵐を辟といふ。又  
あぐり行て五社明神の御社あり。是ハ神名帳ハ但馬國養  
父郡夜夫座神社五座とある神社なり。今ハ藪崎大明神  
や申をり。まう二丁計奥の方ハ山乃口の社といふあり。是ハ狼  
を神ハ祭系御社なりといふ。故ハ此神ハ狼を遣ひて  
いふ。社僧乃居所ハ水谷山普賢寺。本尊ハ茶師如来なり。



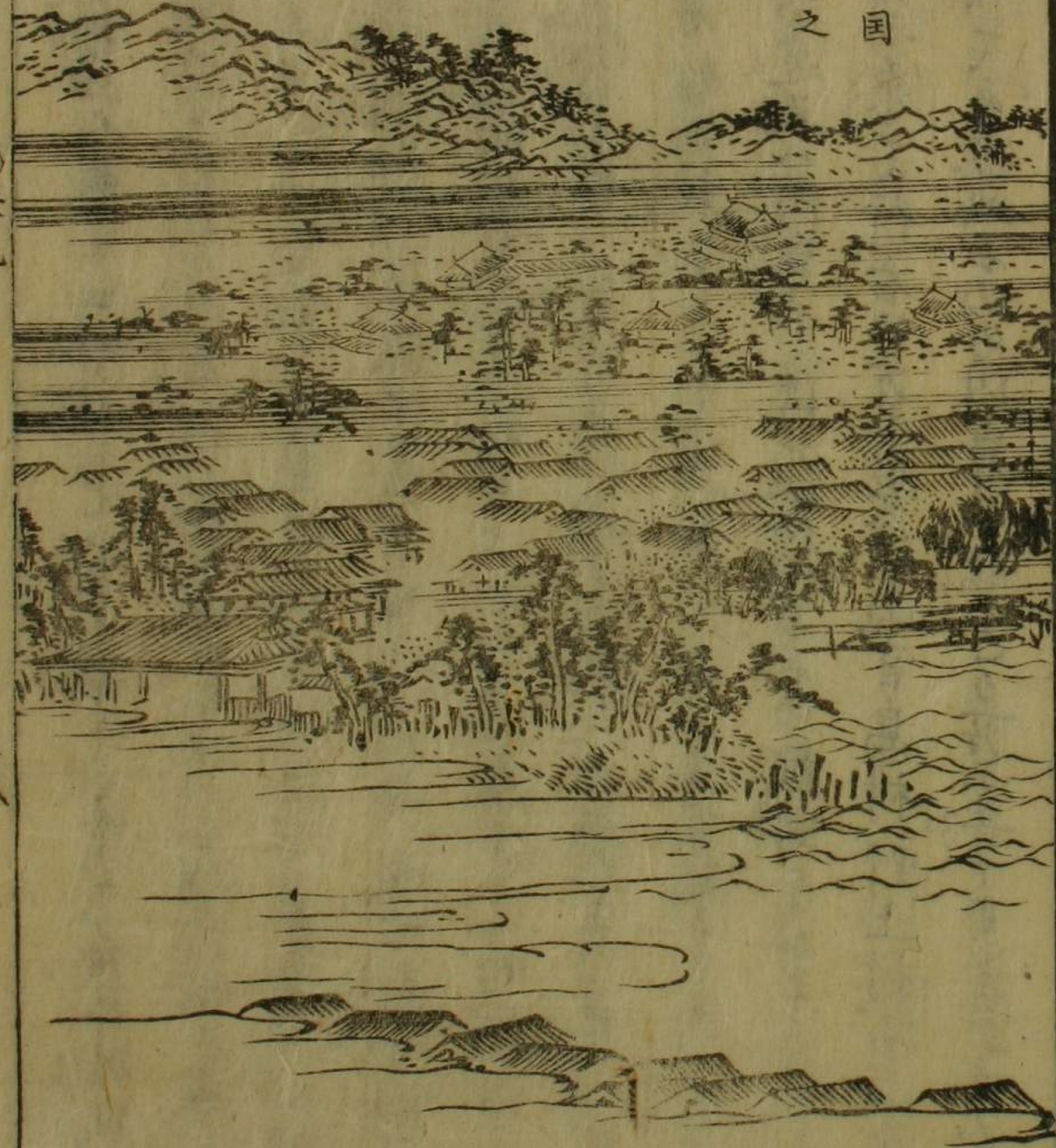
さて大道を歸りて五六丁行ハ 藪崎村 養父宿より 人家四五軒  
茶屋宿屋あり。村の端より左へ行ハ因州道。右へ行ハ湯島  
道より一丁計行ハ大屋川。濁六七十間もあるべし。夏秋の  
間ハ歩渡りあり。冬春ハ舟あり。渡すより五丁計ゆけハ  
穢多村あり。六七丁行ハ 網場村 藪崎より 人家百軒計。茶屋  
宿屋あり。二丁計ゆけハ下みんむ村。農家三十軒あり。五丁  
むらゆけハ大森川。濁六七十間あるを歩より。冬春ハ  
舟あり。渡すより一丁計ゆけハ大森村。御公領より。農  
家三十軒。此あり。別小蚕飼を多くして。家毎ハ夥しく  
飼。十丁計行ハ 小田村 網場より 人家四五軒。茶屋

ありて宿屋あり。直行ハ出石の城下。小出ふを左の方湯  
島の道より。三丁計行ハ人家百軒計。立は。くり。又  
行ハ下小田村。農家五十軒計あり。是より聊づ上より  
の坂と越て。五丁計行ハ江の宮村。農家二十軒あり。  
冬春ハ此所より湯島へ渡り。舟あり。夏秋ハ水浅きより  
て渡すより。二丁計行ハ宿南村。農家三四十軒。村より  
小茶屋のある。小立入。休て。平道五六丁行ハ左ハ岩  
山。右ハ氣多川。小く。岩山の裾の川岸の上を。小坂を登  
り。下より。行ハ。是いと痛し。此間を岩帯と云ふ。と云り。  
十丁計行ハ浅倉村。農家五六十軒。茶屋一軒あり。村乃

出口小滝中川とて、濶十間計の川あると歩より渡ふ。三丁ゆけば  
岩中村農家三四十軒あり。引はぎきて、霄田町。小田村より是  
まで一里半上中  
下の三町あり。商家宿屋茶屋あり。町の中通小溝川あり。引  
はぎきて江原村人家百四五十軒。茶屋あり。商家多く酒  
造の家あり。二丁むらゆけば日置村農家四五十軒あり。  
さて神名帳小但馬國多氣郡日置神社とある。此村小を  
あづがる。二丁計行は、伊福村。霄田より是  
まで半里農家四五十軒。  
商家茶屋あり。宿屋あり。四五丁行は土居村。村をく  
町より人家七八十軒。商家多く茶屋あり。町の中通小溝  
川あり。引はぎきて、伊福村より是  
まで半里近し人家百軒計あり。

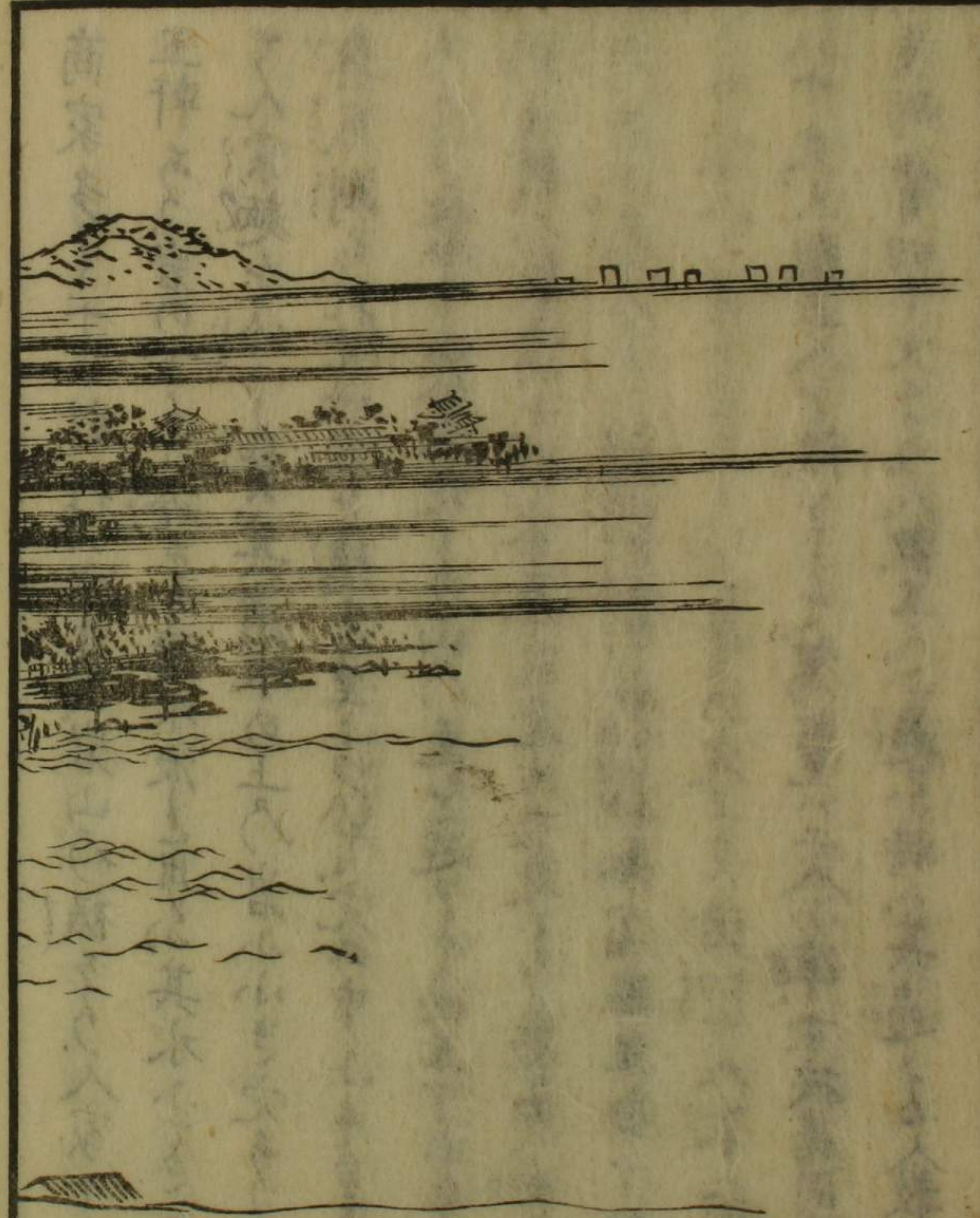
商家多し。十丁計行は水生村。岩山乃裾あり。人家十四  
五軒あり。岩の下より冷なる清水流き出ふ。其水小てたろ  
てん索麵を冷し賣。其清水の上乃岩小き穴ありて、  
奥底測られず。此穴を隠き里よりひて、穴の中小と白胤  
あまう。住せとらへ。是より山乃尾を廻りて四五丁ゆけば  
納屋村人家三四十軒。茶屋宿屋あり。是より湯島へ向く  
川舟小乗んとて、若陸地をゆくときハ佐堅村。  
九日村。豊里と徑歴し行く船宿隘屋勘十郎  
とらふ。舟を出さし。舟賃の定まりハ借切一人乗二百  
八十文。人数五人を限り。駕籠ハ二人小準。扱箱同一。  
屋形賃四十文あり。人数五人小過。不時ハ其過る人数の

但馬國  
豊岡之  
風景



○卷九

十八



賃を増二人乗も此恰好して賃と倍するなり。舟の形状海  
舟のおもしく、かくて打乗行ふ。豊岡まで、川浅く水もやし。  
折る舟すも、かくて動くぬ事あれば、船頭川ふきちり入て下れ  
豊岡納屋村より豊京極甲斐守殿二方の御城下なり。川舟の  
湊なり。出町より、所小橋あり。此所茶屋多し。町は通筋  
二十丁餘あり。海舟も北海より乗入。出町まで来り、はく  
泊る宿。船宿數多あり。湯島(川舟と出す。是より陸地を行  
は、濱邊又ハ河岸とほく、行岩石の艱路なるより、なまは  
猶舟小乗て行。右の方小愛宕山、宮島村、野上村、石山なや  
追續てあり。此石山の川岸小臨まる所、小奇きも石あり。其

形も磨磐の如く上下平めて、周ハ三角四角五角八角等ありて。  
石工の切立、如く色ハ青黒し。これを堀取、照洞のまじふ  
をり、るるなり。天下の廣き小珍奇なること、おろきものあり  
なり。戸島村、樂々浦。左の方小ハ一日市村、二見浦。  
上山村、日礮村、来日村、観音浦、今津村。此村の出  
口小茶屋あり。樓造の家ありて、下小ハ川小臨て、うけ造り  
涼く床あり。舟中より見るも、甚有致なり。湯治人遊賞  
の所なり。ついで、かくて二丁ほり、ゆけば、城崎郡湯島  
豊岡より、御公領なり。又美濱の御代官所、屬せり。はては、  
一筋の町あり。町の中通小細き溝川あり。上の町、中の町、下れ町。

合せて人家二百五十軒、宿屋大小合せて十軒あり。下の町井筒屋六郎兵衛と大家とまきで、尋ね入る滞留の宿や定比家の入口より奥まで、樓上樓下合せて室の數三十小餘あり。さて一室小入る休居る暑氣をりして冷然たり。土地北海小近く、其上山谷の間をればあり。

○十一日己刻過より曇天なりて未刻過より雨なりいでぬ。此所小諸國より湯治のこめふきする人多けしこと、邊國僻地をんば、游觀のこめ小託来るは、まんみく實病れ人のこも多し。まじ自らちあやうりて、華しく遊ば業あり。有馬ちまじの様りりしこと、湯治人旅宿旅籠の價一日二

文あり。朝と未刻頃小茶漬を出し晝と夕方小本膳を出す。又座敷を借ふのこして、食物を自調ふもあり。室代一週二文あり。米味噌薪其外の諸物皆宿小出入する商人通いこて入ふあり。又焚出しと稱するあり。其ハ米を自煮のこして宿小付して、日小二次焚出さしびとれ宿より一汁一菜とほび出す。かくて一週の代一及五分。座敷代小合せて四及五トあり。温泉小浴する事ハ一湯小ハ湯錢なり。幕湯の價一週六文あり。一日小三度つ湯女こまきをあらず。別小切幕とあり。一室限小浴するなり。一日小二度つ一週の價金一歩あり。湯治人初めて宿小著時祝儀を贈ふ事定まらり。

此度ハ主の妻小百匹贈リ、婢四人、僕二人、小百匹湯女三人、小六  
及湯支配、菊屋元七、小銀一兩贈リ、與へり。温泉すべて  
五所、一、小八新湯、下の町の入口小あり、清潔にして甚熱し。  
一の湯、二の湯と二つ小隔をせど、同一泉なり、功効氣血を  
運し、胎毒瘡毒を追出し、創傷など、一旦うしてのら愈  
ふなり。二つ小八中の湯あり、白あり、甚ぬるし、腫物、切痲  
の類、愈ふこと早き、故小愈湯と云ふ。さきども毒氣を追込  
故小程もなく、再發下りたり。三小八常湯、四小八御所湯、  
五小八曼陀羅湯、此三つ大形あり、湯小同し、曼陀羅湯は  
此所の温泉はじめたりといへり。外小殿の湯ハ平人をいさ

ぢ、非人湯ハ非人の之浴なり、さて此地の名物として、賣物ハ、  
麥藁細工、柳行李、湯の花、海苔等なり、さて此所小銀  
札通用す、十文より一步まであり、錢ハ九十八文を以て一文とす。  
此地北海を隔ふ事、僅小一里なり、されば魚類多くして、價  
甚賤し。

○十二日晴、神社佛閣を尋じ、参詣せんとて、宿を出く  
町と西の方小行ハ、町幅狭く、町並惡し、されど三階造の大多  
宿屋、或ハ華好なる小間物屋、及麥藁細工の職人たご多し。  
中の町小至ま、四所、神明社の社あり、是ハ出石明神をうじ  
祭ふところなり、さて出石神社ハ、神名帳小、但馬國出石郡伊

豆志座神社八座とあり。今出石といふ城下八座神社をさへし。  
 未代山温泉寺。是ハ聖武帝の勅號なりと云。樓門小仁  
 王あり。磴道を三丁程登ると本堂あり。道智上人の開基。本  
 尊ハ十一面觀音。替文佛師の作なりと云。又樓門の右  
 寶塔あり。左ハ茶師堂あり。堂の前ハ桜多し。右ハ羅人  
 と云。俳人の塚あり。碑ハ一尺四方あり。高さ六尺計なり。面ハ  
 暮行やあり。この人の初接。羅人横ハ寶曆八年戊寅正月  
 建之と彫らる。鶴の湯。茶師堂の東の山の手ハあり。  
 徑三尺計。窪く中ハ温泉を湛らる。昔鶴の創と病  
 ころが。此所ハ末アそ浴くと愈て去まると云。い傳ふと云。

獨鉦水。極樂寺の後の山の手ハあり。其外 爰宕山。  
 辨天山。治郎兵衛塚。日より山。桃島。烏帽子岩。  
 ハ疊岩。鞍掛山。絹卷島。絹卷大明神。氣比村。  
 小島。津居山。瀬戸山。猿ヶ城。千石岩。龍ヶ  
 鼻。竹の濱をどつと所ハ北海ハ出くる海邊故小。うの  
 ころでハ行ぐ。此地の遊興と云。今津の茶屋。又ハ舟  
 あとびのこちより北海ハ乗出て景より浦々をえり。こ  
 或ハ網舟をやよひはきて魚を捕らせたり。て樂し  
 ら。おもしろけねと。荒海をれば不意なる風波の恐きあり  
 と云。つ。網舟一人乗。一日一艘の船賃四々五分なりと云。



但州城崎里客舎  
 井筒屋の多岐が其の邊  
 此處ハ城崎小ハ  
 形くびなき大家  
 入湯此人皆  
 ころあし  
 やど





○十三日晴。此地のさるまゝ小もいへるごとく、病患療治のい先  
小ハいき所をいれど、無病の人の遊息あそびハ便たやすき湯ハ誠まこと小天  
下無双と聞上きこハ大酒女色の遊あそび絶たぎるをいけまいバ病を治すい  
小ハ必かなくして、態かたく遠路を尋来もとふとも必かなくいひあるべし。  
予いも年来聞及きこびいらる此温湯あつたをいれバ此度幸さいハ立たちいりて二  
三廻さんも浴よくしつべしとおいひりど暑氣の時節殊こと々蚊の  
多おほき地ちめいく晝ひるも帳とろいへ居難いく。将家しやうけをい出いりい  
月日久つきひくいなりいれいれバ僻静へきせいの地ちハ一入い氣屈きくつして歸心きしん  
急きん切せつあるいよいりて、おいづいく久留くわうもいらいづいく。明日ハ立たちい  
と其用意をせいけいらいまいて此地より京大坂まで駕籠荷

物人足等と引受用を辨わかい家ハ魚屋ハ郎兵衛らうべゑとのいく。  
駕籠一挺人足二人丹後の名所を廻めぐりて大坂まで六日むい著  
しり賃銭ハ十二匁五分ごぶん小て雑用ハ川を渡わたる船賃の外  
此方こなたより出す事をいしい大風雨川留かづをい小て日數延ひる  
時ハ飯料いとして人足一人ひとり小一日いちにち小二匁ごもんづいといふもいしいこのい  
便たやすき日數と延ひる時ときハ定さだまる賃銀の恰好さうごうを以もて日數ひ  
くいて増ます賃銀の内五十匁と此所こゝ小て先渡まして餘ハ  
大坂おて拂はふ是定法このさだめをいらいまいて。

筑紫紀行卷九終

